

No.733 December 2017

ASAHI MACHI

Public Relations

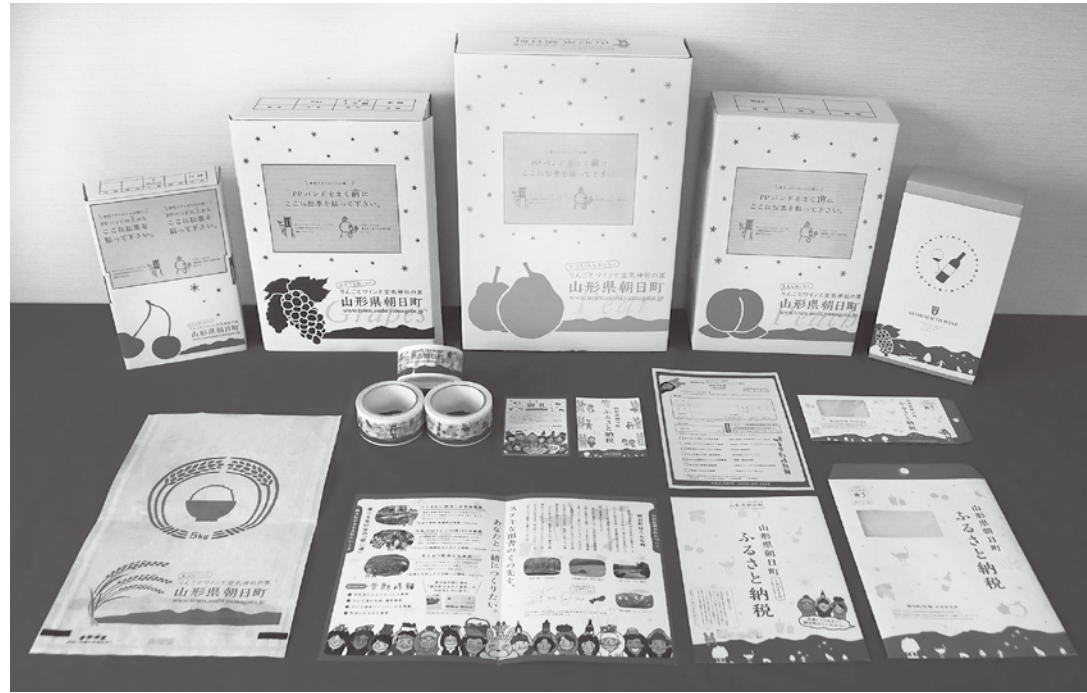
㊦ 広報 あさひまち

雪降る前の冬じたく

2017
12

No.733

朝日町ふるさと納税「エクセレントデザイン入賞」受賞



山形エクセレントデザイン2017

本県のものづくり産業における、魅力的で競争力の高い製品づくりとデザイン力の向上を目的に、県内で企画・開発・生産された優れたデザイン製品等を表彰する「山形デザインコンペティション（競技会）」の受賞製品および事業所が10月上旬に選定され、「朝日町ふるさと納税」が「エクセレントデザイン入賞」8点の内の1点に選ばれました。

山形デザインコンペティション実行委員会（会長：吉村美栄子山形県知事）主催で平成9年度より行われている事業。現在は2年ごとの実施となっており、今年で10回目の開催となります。

今回は県内から65事業所・80点が応募。株式会社ユニバーサルデザイン総合研究所所長の赤池学氏ほか審査委員6名による厳正な審査の結果、15点が選出されました。

「朝日町ふるさと納税」は、町と寄付者とのコミュニケーションに重点を置き、

「町と寄付者のコミュニケーション」を目的としたデザイン 高く評価

一目で朝日町のものとなるデザインの一に注力。また、寄付者に町の旬な情報を伝える小冊子を年数回發送するなど、町を好きになってもらうPRツールとしても機能しており、その取り組み一つ一つが「丁寧」に考えられ、統一感がある」として評価されました。

最高賞のエクセレントデザイン大賞には、大蔵村棚田米生産組合による一連の販促PRの取り組みが選ばれています。

12月4日、山形県高度技術研究開発センターで行われた表彰式には、デザインを担当した町情報交流推進員（地域おこし協力隊）の青木亮太氏と、ふるさと納税の取り組みを監修する佐藤恒平まちづくり総合アドバイザー等が出席。この度の受賞について青木氏は「デザインの大切さ、丁寧に進めてきた取り組みが、デザインの観点で認められたことがとても嬉しい」と喜びを語っていました。

目次 ◎ CONTENTS

- P2 町長歳時記
- P3 Pick Up News
朝日町ふるさと納税「エクセレントデザイン入賞」受賞
「絆」（きずな）
～朝日中学校と宮城県女川町 手紙でつないだ真心の交流～
- P4 町政スポット
・朝日町青少年健全育成町民大会
・郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト」で探究大賞
・堀敬美氏と白川千春氏に市消防本部より感謝状
- P10 まちレポ
・第38回 朝日町産業まつり
・りんごキャンペーン
・朝日町ビクトリークリニック
・かぼちゃランタンで小人の村づくり
・朝日町給食フェア ほか
- P12 健康あさひるばんざい、朝日町エコミュージアムサテライト散策、それいけ協力隊とウサビ、町立図書館コーナー
- P18 各種スポーツ大会 文化コンクール等の入賞結果
- P19 戸籍のまど、となりのリンゴさん、広報誌でふるさとのぬくもりを
- P20 クリスマス子どものつどい

表紙の写真



12月6日、国指定重要文化財に定められている佐竹家住宅（佐竹恒雄氏宅／夏草）の雪囲い作業取材しました。米沢藩最上川舟運の通船差配役を任されていた佐竹家。現在の家は1739年に火災があった後に建てられたもので、寄棟造の茅葺屋根が今もほとんど変わらぬ形で残ります。手づくりの雪囲いも昔ながらの趣きが感じられました。

町長歳時記 （137）

地域の子どもは、地域の宝 ～みんなで育てる地域の子ども みんなで築こう地域の学校～

11月27日に開催された「青少年健全育成町民大会」で、海外派遣事業に参加した朝日中3年生6名の発表がありました。「朝日町の学校で育てられて良かった」。これは、この発表のためにみんなで努力する姿を間近で見てきたお母さんの言葉です。

この発表に引き続き、習志野市秋津コミュニティ顧問の岸裕司氏から「コミュニティ・スクール」のあり方についてご講演をいただきました。

その中で、「社会的親」という耳慣れない言葉がとても印象深く心に響いてきました。「社会的親」とは、血縁のない子を「うちの子」と捉えるような関係です。運動会も子どもたちだけでは成立しない少人数の学校では、地域の運動会として、保護者以外の大人たちも一緒になって取り組んでいます。これら学校行事と一緒に関わってくれている地域の人たちを、社会的親と捉えることができます。そんな社会的親と多数関わる環境で育ってきた生徒たちは、大人との関係や人との距離感などを学習し、大規模中学に進学しても意外とすんなり新しい環境に入っていけたということです。むしろ社会的親が少なかった大きな学校の生徒よりも友だちづくりが上手な傾向があるそうです。

この話を聞いた時、私は身震いを感じました。小さな学校だからと言って、何もうつむくことはない。規模の大小ではなく、地域の人たちと一緒に学校づくりをしていくことで、真に「生きる力」を身につけていくことができる。さらに故郷を思い人々を思いやる、優しく力強い人間に育っていく。「この小規模校は、社会的親の大規模校だ」。正にこの言葉に勇気づけられた思いです。

「この学校で育てられて良かった」と言ってもらえる学校は、きっと学校に関わる地域の人たちにも生きる喜びを伝え、地域に新たな活力の息吹を与えてくれるものと思います。

朝日町長 鈴木浩孝

震災、そして被災地の皆さん
のことを、決して忘れない。

平成23年3月11日、未曾有の大災害、東日本大震災発生――。

町内では直接的な被害はほとんどありませんでしたが、日々報道される悲惨なニュースに、同じ東北の仲間として心を痛めた方も多かったと思います。

そんな中、「自分たちにもできることはないか」と真剣に考え、行動に移した人たちがいました。朝日中学校の生徒たちです。

「被災地の皆さんのことを、私たちは決して忘れません」。そんなメッセージを込めた手紙から始まったつながりは、やがてお互いの地域を行き来する交流へと発展していきました。

最初の手紙を届けてから6年。毎年行ってきた被災地への訪問ですが、今年度末をもって、交流を行ってきた石巻市（内田・蟹田地区）の仮設住宅が国規定の供与期間を終了します。

この活動を通じて、生徒たちは何を感じ、何を学んだのか。また、仮設住宅に身を寄せる皆さんはどんな影響を受けたのか。

6年間の交流と、その軌跡について特集します。

最後の訪問（クロージングセレモニー）

「毎年お会いする度に、皆さんとの心の距離が縮まっていくのを感じていました。ここで得た出会いや、温かなふれあいは、心に一生残る貴重な経験でした――」。

11月25日、宮城県石巻市。その内田地区と蟹田地区に、東日本大震災で被災した同県女川町の皆さんが身を寄せている。来年3月をもって、この2つの仮設住宅が解散となることが決まり、最後の交流訪問として、朝日中の代表生徒41人と卒業生12人、現職員と退職・転出職員含めて約70人が訪れた。「心に一生残る出会い」。クロージングセレモニーでの卒業生代表のあいさつに、その場に居る誰もが深く頷いていた。

笑顔あふれる交流会

1年生が心をこめて育てた「女川」の文字入りりんご、校内募金で購入したギフト箱詰めりんご、保護者の農家さんから提供されたラ・フランスやジュースの詰め合わせ、昨年の記念写真を入れた特製カレンダー。毎年たくさんの贈り物を持って訪れる生徒たちを、仮設住宅の方々はあたたかく迎え入れてくれる。

「今年も楽しみに待ってたよ」「よく来たね」「いっぱい食べてね」。

歓迎のために用意されたご馳走は、近海で獲れたサンマやホタテ、カキにつぶ貝など、食べきれないほど。「おいしい」と口々に声が上がり、顔をほころばせて食べる生徒たちの姿を、現地の皆さんが同じ笑顔で見つめていた。

「解散」は「前進」である

震災直後、2カ所の仮設住宅には、合わせて約50世帯の入居があった。あれから6年、現在その数は15世帯ほどに減っている。持参したお土産を届けに訪ねた家も、留守が目立った。

「若い人はみんな働きに出ていて、最近は次々と新しい家が建って、多くが仮設住宅から転居していきました。喜ばしいことです」。内田地区仮設住宅の木村六千男（むくむちお）さんはこう語る。この場所が始まった交流の終わりは、被災地の方々にとって、明るい新生活の始まりでもある。

女川町は、震災による津波で建物の8割以上が被災するという甚大な被害を受けた。木村さん曰く「長く暗いトンネルの中にいるようだった」。毎日に、中学生からの手紙は、どんな影響を与えたのだろうか。また、厳しい状況下で申し出を受け入れ、歓迎してくれた女川町の皆さんとの交流に、生徒たちは何を感じ、何を学んだのだろうか。

特集

「絆」

～朝日中学校と宮城県女川町

手紙でつないだ真心の交流～

感謝の気持ちを込めた合唱



美味しいおもてなしでお腹いっぱい



輪になって心をひとつに



住宅一軒一軒を慰問



あたたかいお見送りをいただきました



石巻市（内田・蟹田地区）仮設住宅訪問
クロージングセレモニー（2017.11.25）



▲訪問した朝日中学校代表生徒と卒業生、石巻市（内田・蟹田地区）の仮設住宅に身を寄せる女川町の皆さんで記念撮影

「でもこの時は緊張していて、何と声をかけたら良いか分からなくて…」と菊地さん。当時の集合写真もどこか「ぎこちない笑顔」だと語る。遠藤さんも

被災地の現状

平成24年11月24日、代表で18人が仮設住宅を訪れた。一軒一軒訪問し、持参した贈り物を配る生徒たちを、現地の皆さんは手づくりの昼食で精一杯もてなしてくれた。

町のおじいちゃんを届けたい

初めての返信を受け取った時、菊地さんは「ああ、心がつながった」と感激したと言う。返信の手紙は全校生に向けて掲示され、お昼の放送でも紹介された。手紙を書かなかった生徒も被災地の声を聞き、「自分も参加したい」「もっとやれることはないか」と考え始めた。

そして皆さんを元気づけたいとの想いから、町のりんごを届けようという動きが起った。1年生が総合学習の時間に育てたもの他、生徒会を中心に校内で募金を募り、りんごを買った。生徒の保護者から協力の申し出があり、ラ・フランスの提供も受けた。

「最初は断ろうと思ったんですよ。こここの入居者は高齢の方が多いし、慣れない仮設住宅の暮らしで、心の余裕もありませんでしたから」。蟹田地区仮設住宅の自治会長、遠藤康夫さんはこう話す。「でも、なんとか生徒の手

行っていたことがきっかけで、声をかけてくれたという。

しかし、震災からわずか1年余り。被災地は未だ厳しい状況で、手紙を受け取ってくれる相手を探すのは困難を極めた。「多くの自治体や教育委員会、ボランティア団体等に連絡をとりましたが、なかなか良い返事は得られませんでした」。当時朝日中学校の校長を務めていた阿部進悦さんはこう振り返る。交流先が決まらず頭を抱える中、日本赤十字社の山形県支部から、石巻市の内田・蟹田地区を紹介された。同支部が被災地支援として現地仮設住宅の炊き出し等を行っていたことがきっかけで、声をかけてくれたという。

朝日中学校が被災地支援として仮設住宅の方々に手紙を送り始めたのは、平成24年の7月からだ。当時被災地へ様々な支援物資が届けられている中、「中学生の私たちにもできる支援」として考えたのが、「被災地の皆さんの心を励ます手紙」という交流だった。

物ではなく心の支援なら
中学生の私たちにもできる

朝日中学校×宮城県女川町



最初に手紙を送ったメンバーの1人である菊地美桜さん（左沢高校3年／夏草）

「来てもらって嬉しい反面、誰もが素直に心を開ききれないのを感じていました」と振り返る。「正直この時は戸惑いの方が大きかった。当時たくさんの支援団体が被災地に駆けつけ、物資や経済的支援もいただきました。本当にありがたいけれども、気疲れすること多くてね。受け入れる気持ちの整理ができていなかったんです」

交流会の後、生徒たちは津波の被害に遭った中学校を見学した。止まった時計、積み上がった備品や教科書、崩れた壁や天井…。震災の爪痕が大きく残る惨状に、言葉が出なかった。

帰校後、現地の写真を交えて報告会を行った。被災地の皆さんの負担にならず、今本当に必要な支援は「心の支援」だと皆が再確認した。その後まもなく、全校生徒の賛同で年賀状を書くことが決まり、以来毎年暑中見舞と年賀状を作成している。

手紙から始まった心の交流



石巻市蟹田地区仮設住宅の遠藤康夫自治会長

紙を届けたいという阿部校長の熱意が伝わってきたし、『読むだけならば』と返事をしました。今となっては、あの時勇気を出して引き受けて、本当に良かったと思います」

初めての手紙と初めての返信

最初に手紙を書いたのは、各クラス希望者から17人。当時1年の学級委員だった菊地美桜さんは、「やっと皆さんの力になれると思って嬉しかった」と語る。ただ、書く内容については随分頭を悩ませたようだ。

「初めての、しかも被災して心を痛めている方へのメッセージです。失礼にならないか、『頑張れ』なんて励ましたら余計負担になるのではないかと不安になりました」。取り組みを担当する大久保守先生からは「返事は来ないかもしれない。でも、みんなが相手を想う素直な気持ちを伝えることが大

◆現在の女川町を見学

今回の仮設住宅への訪問後、生徒たちは復興のすすむ女川駅前プロムナードや復興住宅地を見学し、最後に女川地域医療センターを訪れました。高台にあるこの病院には震災慰霊碑があり、生徒たちは献花と黙祷を奉げました。

また同地に設置してある「女川いのちの石碑（※）」を見学。津波記憶石とも呼ばれるこの石碑は、正にこの場所が津波に襲われたという事実と教訓を、未来へ語りかけていました。

（※）「千年後の命を守るために」…いのちの石碑プロジェクト

女川町の当時の中学生が考えた防災プロジェクトの一環で、一般に寄付を募りながら建立をすすめている石碑。町にある21の浜の、津波が到達した全地点に石碑を建てるのが目標で、第1基目は女川中学校の中庭に平成25年11月に建立。現在は16基が建つ。



女川町の位置図



【女川町の人口】（平成29年11月30日現在）

◆人口総数：6,656人
◆世帯数：3,172世帯

宮城県牡鹿郡 女川町

【東日本大震災における被害状況】 ※各数字は女川町ホームページより抜粋

◆推定震度：6弱 ◆最大津波高：14.8m ◆浸水区域：3.2km²
◆被害区域：2.4km²（宮城県発表）

▶人的被害

震災時人口	10,014人
死者数	574人
死亡認定者（※）	253人

（※）行方不明者で死亡届を受理された方

▶持家被害（住宅総数：4,411棟）

被害総数	3,934棟（89.2%）
うち全壊	2,924棟（66.3%）
大規模半壊	149棟（3.3%）
半壊	200棟（4.6%）
一部損壊	661棟（15.0%）

全校生で年賀状の制作用業



笑顔あふれる昼食交流会



文化祭への招待と合唱披露



「忘れなご」って。未来へ続く交流

良好に続く両者の交流だが、被災

中学生の活動に地域が動いた
この交流を通じて、生徒たちは学校活動だけでは得られない多くの経験を積んだ。「相手を思い、自分にできることを考える」。これまで以上に地域行事やボランティアなど、様々な活動に意欲的に取り組むようになった。
内田・蟹田地区への訪問も希望者が増え、年々規模が拡大。予算等の問題も膨らんでいったが、取り組みが知られるにつれて、地域から多くの賛同や協力が集まった。日本赤十字社や中部電力、地元銀行からの助成や援助。日本郵政公社からはハガキ、町の農家からは被災地へ贈る農産物などの提供があった。「結果的に学校と地域とのつながりも深まり、理想的な形で活動を続けてこれたことは、本当に幸運でした」と大久保先生は語る。

「交流」はずっと相手を想

地の状況は日々変化している。復興支援住宅の建設が進み、入居者の減った内田・蟹田の仮設住宅も来年の3月で国規定の供与期間を終える。現地の皆さんは歓迎してくれるが、相手の負担になつてはならない。朝日中学校は今年度をもって、訪問交流を終了することに決めた。しかし、それでこれらのつながりを断つ訳ではなく、できる限り手紙やハガキでの文通交流は続けていく考えだ。
卒業後も個人で交流を続けている生徒もいる。先述で紹介した菊地さんもその一人で、復興した女川町に「いつか自分が育てたりんごを届ける」と約束したという。「来春、無事農業大学への進学が決まりました。ここで得た出会いが、自分の夢への励みになっています」
『震災を、被災地の皆さんのことを、ずっと忘れない』一通の手紙は人と人をつなぎ、心の交流を生んだ。そしてこの交流は、未来へ続いていく。

◆交流の取り組みを振り返って

6年間の交流と学校の取り組み、またこれからの活動について、朝日中学校の佐藤校長先生にお話を伺いました。

「私たちにもできることはある…」そんな気持ちから始まったこの交流活動は、たくさんの方々のご支援により、これまで6年間にもわたり継続することができました。また何より、内田・蟹田地区仮設住宅の皆さまが生徒たちを温かく迎え入れてくださり、このような特別な関係を築いていただいたことに深く感謝をしております。

本校の生徒たちはいつも被災地の皆さんに思いを馳せ、「元気になってもらいたい」という気持ちを込めて手紙を書いてきました。本当に心から真剣に取り組んでおりました。この活動によ

り、彼等は「他者を思いやり、自らでできることに力を注ぐことの素晴らしさ」を実感することができたのだと思います。この経験は、きっと「朝日町の将来を支える力」へ発展してくれるものと確信しています。

今後はこの交流で得た学びを「朝日中学校のスタンダード」と位置付け、より地域に根差した実践活動に力を入れていきたいと考えております。

最後になりますが、この活動に対し、多方面から多大なご支援ご協力をいただいたことに心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。



朝日中学校 佐藤 雄一 校長

い続ける「絆」になった

解けた心と深まる絆
被災地の皆さんの笑顔に、生徒たちは逆に励まされたという。そして「自分たちの活動が誰かの力になる」という実感に、大きな自信とやりがいを見出していた。こうして絆を深めた交流は、この後も定期的にお互いの地域を行き来するものへと発展していく。
「時間の経過とともに、私たちの心も少しずつ落ち着きを取り戻していききました」と遠藤さん。「すると、手紙や合唱から朝日中学校の子どもたちの真っ直ぐな想いが伝わってきて、いつしか彼らが大好きになった。毎年お会いするのが、本当に楽しみでした」

◆最後の訪問を終えて…

内田・蟹田地区への最後の訪問を終えての感想やこれまでの取り組みについて、朝日中学校の太田生徒会長と志藤副会長にお話を聞きました。

毎年被災地を訪問するたびに街並みが変わり、少しずつ、しかし確実に復興へ向かっていく現地の様子を直に感じる事ができました。先輩方から引き継いだ、女川町の皆さんとの大切な「絆」。今年で最後の訪問になるということで、みんなで最高の会にしようと、合唱練習にも力が入りました。おかげで、今までで一番良い歌声を届けることができたのではないかと思います。



朝日中学校生徒会長
太田 迪喜 さん（緑町）

これからはこの交流活動の経験を活かし、町や地域に貢献できるよう、様々な活動に積極的に取り組んでいきたいです。

女川町の皆さんとの交流は、私たち朝日中生にとって特別なものです。今回の訪問をもって直接的な交流は終了となり、寂しい気持ちもあります。でも、被災地の皆さんにとっては復興の進んだ証であり、嬉しいことです。

交流会では最後まで温かく迎え入れていただき、元気づけるつもりで伺った私たちの方が逆に励まされました。私たちはこの交流活動で、普段の勉強だけでは得られない「思いやりの精神」が身に付いたように思います。今度はこの経験を、地域や人のために活かせるように頑張っていきたいです。

朝日中学校生徒会副会長
志藤 七那子 さん（栗木沢）



初めての仮設住宅訪問



りんご購入のための募金活動



復興祈願文字入りりんごの収穫



朝日中1年生総合学習「郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト」で探究大賞

■教育文化課 学校教育係 ☎67-3302



▲お揃いの法被姿で、堂々と発表する朝日中1年生の代表メンバー6人

◀見事最優秀賞に選ばれ、ステージ上で表彰を受けました

県教育委員会が主催し、県内の小中高校生がふるさとの魅力を発表する「郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト」が11月4日、遊学館（山形市）で開かれ、朝日中学校1年生による総合学習「Search for Asahi」朝日町を知る」が中学校部門最優秀賞の「ふるさと探究大賞」に選ばれました。

発表会には1次審査を通過した12チーム11校が出場。中学生以上はそれぞれ10分の持ち時間で発表しました。

生徒たちは、4月から取り組んできた総合学習について説明。町の「自然・歴史・人・りんご」を通して、その魅力の再発見と、自分と地域とのつながりを考えてきた成果を発表しました。お揃いの紅白ボーダーの法被姿での堂々たるプレゼンで、見事最優秀賞を勝ち取りました。

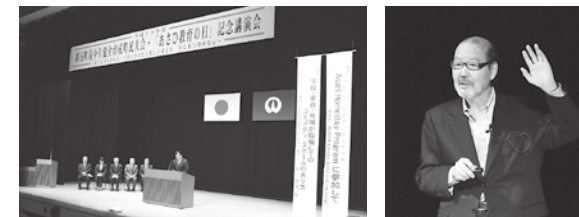
発表メンバーの1人である梅津彩果さん（常盤）は、「笑顔でスムーズに話せるように気を付けた。1年間みんなで研究してきた頑張りが評価されて嬉しい」と語っていました。

町民一丸となって子どもたちの育成に取り組む 朝日町青少年健全育成町民大会

■教育文化課 生涯学習係 ☎67-2118 / 学校教育係 ☎67-3302



今回の経験で、将来の自分がどう変化したかを発表する派遣生6人



開会式の様子（写真左）。家庭・学校・地域が一体となって子どもたちを育てる「コミュニティ・スクール」について講演を行った岸氏（写真右）

今年度の町青少年健全育成町民大会および「あさひ教育の日」記念講演会が11月27日、創遊館で開催され、各地域・団体の代表者、学校、教育行政関係者など約200人が参加しました。

11月1日の「あさひ教育の日」にちなんで開かれている大会。「育てよう生きる力」をテーマに、町民一丸となって町の宝である子どもたちの教育と環境について考えます。

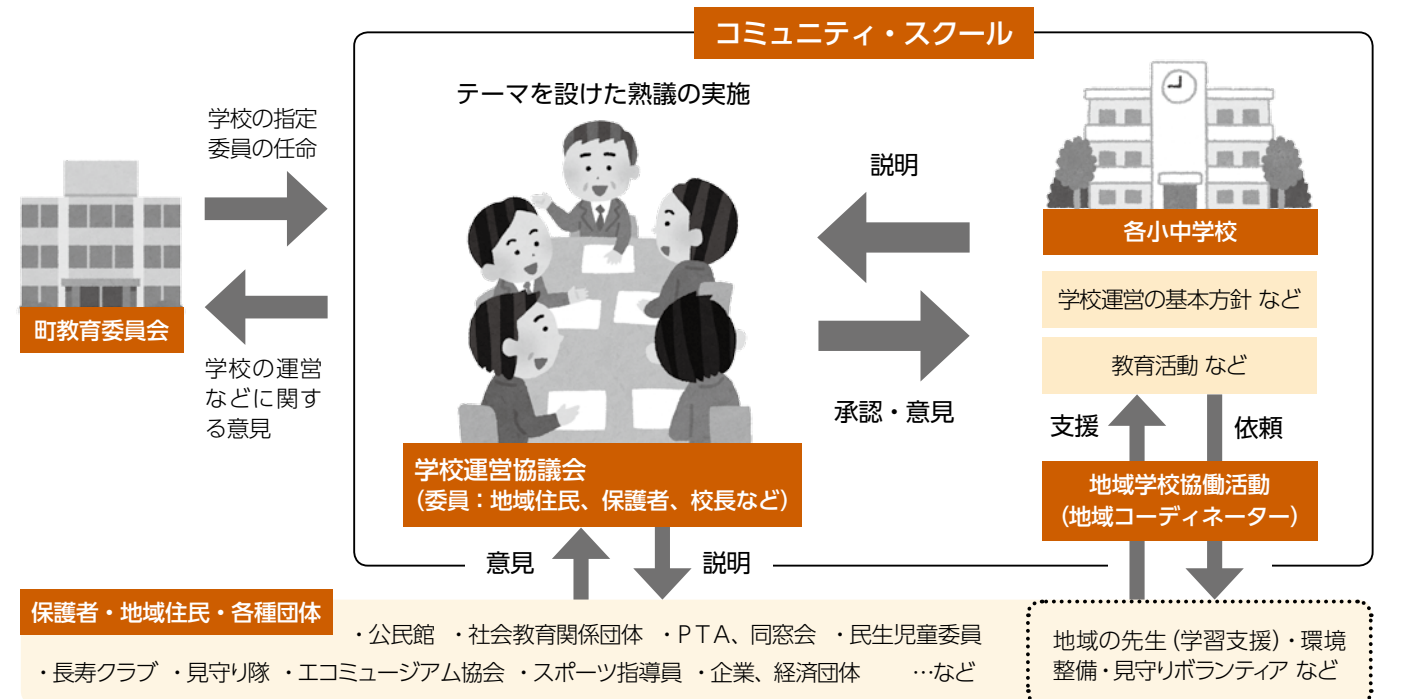
記念発表では、中学生海外派遣事業で今夏アメリカに渡った派遣2期生の6人が登壇

ホームステイや現地中学生との交流などを振り返り、この経験を通して見えてきた将来の自分について堂々と発表しました。

記念講演では、来年度から町でも実施を予定している「コミュニティ・スクール（下図）のあり方について、文部科学省認定コミュニティ・スクールマイスターである岸裕司氏が講演。「地域に開かれた学校で育ち、多くの大人と様々な経験をともにした子どもたちには、自然と前向きに生きる力とふるさと意識が醸成される」と、実例を元にその効果について語りました。

コミュニティ・スクールとは？

学校の門戸を開き、学校運営や課題に対する情報を保護者や地域住民と共有し、ともに考える仕組みです。教育委員会や各校校長、保護者や地域住民などで組織する「学校運営協議会」を核として、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育み、地域に根ざした魅力ある教育を実現させていきます。



特別養護老人ホームふれあい荘 堀敬美氏と白川千春氏に市消防本部より感謝状

■健康福祉課 ☎67-2116



贈られた感謝状を手にした堀敬美氏（右）と白川千春氏（左）

住宅火災現場で人命救助と消火活動に協力した功績を称え、特別養護老人ホームふれあい荘（長岡浩之施設長）職員の堀敬美氏（中沢）と白川千春氏（松程）に山形市消防本部より感謝状が贈られました。

火災は10月24日の午前中に山辺町大蔵地区で発生。施設利用者とともに紅葉狩りで同地を訪れていた2人は、付近の木造2階建て住宅から煙が上がっているのに気付く、近隣住民に119番通報を依頼しました。また、住宅

1階で助けを求める声を聞きつけ、中で逃げ遅れていた高齢女性と男性の2人を介助しながら救出。消防車が駆け付けるまで、近隣住民と協力しながら初期消火活動を行いました。

感謝状贈呈式は11月22日に山形市消防本部で行われ、黒田重孝消防長は「適切な初期対応で人命救助、さらに火災の延焼を防いでいただいたことに深く感謝を申し上げます」とあいさつ。

白川氏は「職場での防災訓練が活きた。また、同行していた利用者の皆さんの理解があつて対応できた」と振り返り、堀氏は「地元消防団での経験があつて火災の予兆に気付けた。日頃の訓練の重要性を再確認した」と語っていました。



11/14~ 待ちに待ったファンで大盛況 りんごキャンペーン

雨が多く日照時間の少なさが懸念されましたが、町名産のふじりんごは、今年も糖度・硬度・酸味ともにバランスよく、蜜入りの良い美味しいりんごに仕上がっています。これら特産のりんごをはじめとした町内の物産品を広くPRする「りんごキャンペーン」が、11月14日・15日に仙台市の勾当台公園などで、21日・22日に山形市の山形銀行本店前で行われました。

もとは降雹被害にあったりんご農家を助けたいという一心から始まった当キャンペーンも今年で22回目。近年は山形、仙台双方で「朝日町の無袋ふじ」がひとつのブランドとして定着し、毎年楽しみにしているという「常連」のお客さまも増えています。大きな箱ごと買い求める方や、親戚や友人に発送する手続きを行う方、そして、各キャンペーンに連日訪れるお客さまも見られました。

4日間でお買い求めいただいたりんごは、過去最高だった昨年に並ぶ約10トン。今年もまた町内産りんごのファンを着実に増やしています。

ホームページに写真



11/18~19 町内の産業が一堂に集まる大イベント 第38回 朝日町産業まつり

「朝日町産業まつり」と「りんごまつり」が、11月18日と19日の両日、町民体育館を主会場に開催されました。

町内の産業が一堂に集まる、年に1度の大イベント。会場では「りんご品評会」に出品された最高級のりんご79点が並んだほか、町内の企業、商店等による物産品コーナー、宮城県七ヶ浜町と気仙沼市本吉町の海産物コーナーなども設けられ、2日間で延べ2万人のお客さまが来場しました。

産業まつりの来場者はここ数年で著しく増加。今年は1日目の雨と2日目の雪の影響で過去最高とはなりませんでしたが、昨年並みの盛況を維持しています（24年…12,000人→25年…17,000人→26年…20,000人→27年…21,000人→28年…20,000人→29年…20,000人）。

町にりんごが植栽されて今年で130周年。町ではこの結果を町内産りんごのブランドイメージが高まり、メディアへの露出も増えていることが要因と分析し、今後は商店街や飲食店への誘引など、町全体への更なる波及効果を期待しています。

まつりに合わせて行われた優秀技能者表彰では、次の方々が表彰を受けました。【敬称略】

【町表彰】

阿部秀一（四ノ沢）…石工として44年間職務に精励

【事業振興協議会会長表彰】

川村郁恵（株式会社アサヒ技研）、阿部はる子（株式会社朝日相扶製作所）、川口 功（株式会社ニクニアサヒ）、畠田善浩（大東建設株式会社）

11/23 プロ野球選手が町にやってきた！ 朝日町ビクトリークリニック

朝日町ビクトリークリニックが11月23日、創造館および町民体育館を会場に開かれ、町野球スポーツ少年団（朝日サンフラワーズ）と朝日中学校野球部部員など約100人が参加しました。

町と総合的なまちづくりで提携を結ぶミズノ㈱との共同事業。今回は「野球編」として、読売ジャイアンツなどで活躍した元プロ野球選手の仁志敏久氏と、U12侍ジャパントレーナーの川島浩史氏の2人が来町。一般町民に向けたトークショー形式の講演会の後、子どもたちに運動神経を伸ばすトレーニング法や準備運動、キャッチボール、送球、バッティング等の実技指導を行いました。

自分で状況を判断し、ミスをして最後まで諦めずにプレーすることの大切さを説き、「ここから将来のプロ野球選手が生まれることを期待したい」と、手取り足取り熱心に指導に当たる仁志氏。

参加した朝日サンフラワーズ主将の阿部奏翔くん（大町）は、「プロ選手に直接指導してもらい、新たな発見がたくさんあった。今後の練習にぜひ取り入れたい」と目を輝かせていました。

▲▲仁志氏から直接実技指導を受ける子どもたち。目を輝かせてアドバイスを聞く
▼最後にみんなで記念撮影



ホームページに写真



▼第37回りんご品評会結果一覧（出品数79点）▼

最優秀賞	志藤 宣徳	川 通	銀 賞 (5点)	佐藤 透	沼 向	努力賞 (10点)	村山誠一郎	大谷七
優秀賞	村山 茂雄	大谷七		菅井 誠吾	沼 向		村山 征一	大谷七
金賞一席	菅井 春彦	沼 向		海野 清一	ハツ沼		菅井 孝啓	沼 向
金賞二席	川口幸次郎	大暮山	銅 賞 (5点)	鈴木長兵衛	真 中		菅井 勇輝	沼 向
金賞三席	阿部 秀一	夏 草		菅井 健	大 隅		鈴木 孝一	大谷二
				阿部 智彦	夏 草		齊藤 利彦	夏 草
				白田 憲彦	大谷三		鈴木 祥宏	大 隅
				阿部 為吉	常 盤		志藤 一夫	川 通
				佐藤 秀爾	平		遠藤 直裕	舟 渡
				海野 信也	送 橋		清野 千春	沼 向

※銀賞・銅賞・努力賞については、出品番号順になります。



11/5 色鮮やかに紅葉したブナ林を探索 紅葉の高田山ブナ林探索会

町エコミュージアム協会が主催する「ふるさとミニ紀行」の「紅葉の高田山ブナ林探索会」が11月5日に開催され、町内外から20人が参加しました。毎年初夏に高田地区の地区行事を兼ねて行われている高田山ブナ林探索会。紅葉の季節もまた違った魅力があるとして、こちらは平成27年より新たに実施されています。当日は朝方まで雨が降ったものの、山に入る頃には無事回復。参加者は黄色やオレンジに色付いた紅葉のブナ林を楽しみました。



▶「第1期生の頑張りに期待したい」とあいさつする小林教育長



11/11 受験対策として今年度から新たに開講 あさひ英語学習会開講式

高校受験に向かう中学3年生を対象とした「あさひ英語学習会」の開講式が11月11日、創遊館で行われました。町が受験対策として英語学習会を実施するのは初めての試み。11月から2月まで予備講義を含めて15回の開催を予定しており、希望者の16人が参加します。講師は英語検定学習会でも講師を務めたモラ真紀氏。参加者の五十嵐光さん（中沢）は「苦手な英語だが、ここでしっかり学んで志望校に合格したい」と意気込みを語っていました。

11/29 総合の時間で郷土学習 西五百川小6年生 ハツ沼城跡を歩く

11月29日、西五百川小学校の6年生9人が、総合の時間の郷土学習としてハツ沼城跡を巡りました。ハツ沼城跡は春日沼付近の楯山にあり、現地では崖を利用した曲輪や旗立森、堀切や本丸跡など、中世の山城の遺構を今もそのまま見ることができます。町史編纂専門員を務める長岡信悦氏の案内で城跡全体を歩き、在りし日のハツ沼城に思いを馳せる児童たち。「お城を守る仕組みや歴史がわかって面白かった」と語っていました。



◀随所に設置してある案内看板



12/1 みんなで作った手づくりリリース 朝日中こだま学級クリスマスリースを販売

12月1日、道の駅あさひまちで朝日中学校特別支援学級「こだま学級」の生徒が、手づくりのクリスマスリースを販売しました。生徒自ら育てたサツマイモのつるや花、学校周辺で集めた木の実などを材料に毎年制作しているもので、道の駅での販売は3年目。値付けも自分たちで計算して行っています。「私たちが作ったクリスマスリースです。いかがですか？」という元気な声に多くのお客さまが買い求め、ほぼ完売する大盛況ぶりでした。



▲かぼちゃを彫ったり、くり抜いたりして、小人のお家を作ります
◀幻想的な光景が広がる点灯式



◀▲大人も子どもも「おいしい」と笑顔でばかり



11/3~4 ハチ蜜の森キャンドル主催の人気イベント かぼちゃランタンで小人の村づくり

ハチ蜜の森キャンドル（安藤竜二代表）が主催する「紅葉の雑木林にかぼちゃランタンで小人の村づくり」が11月3日・4日の両日、ハチ蜜の森キャンドルおよびAsahi自然観で開催され、県内外から2日間で約40人が参加しました。

町の自然に育まれた蜜ろうそくで、森に感謝の光を灯そうと始まったイベントは今年で26年目。参加者1人ひとりが森に住む小人の姿を想像しながら、蜜ろうそくとランタンづくりに取り組みました。夕方行われた点灯式では、紅葉した落ち葉が散るブナ林にランタンの灯りがこぼれて本当に小人の村のような光景が浮かび、参加者はうっとりとして見入っていました。

11/18 町のおいしい給食の取り組みをPR 朝日町給食フェア

地産地消・安心安全な町の学校給食を知ってもらおうと「朝日町給食フェア」が11月18日、開発センターで開催され、約150人がおいしい学校給食を試食しました。

町内に勤務する調理師や用務員などの現業職員が中心となって企画され、町産業まつり内で実施。用意された献立は「カレーピラフ」「切干し大根のサラダ」「デザートのリんご」まで、材料はほとんどが町産です。山形市から参加した女性は「他自治体の給食を試食したこともあるが、それと比べても朝日町の給食は栄養バランスが良くておいしい。子どもたちも幸せだと思う」とにっこり。参加者は作り手の顔が見える安心でおいしい給食に感謝しながら、残さず食べていました。

12/2~3 「女性文化教室」1年間の学びを発表 第38回 女性まつり

今年で38回を数える「女性まつり」が、12月2・3日の両日、創遊館で開催されました。3日の発表会には約160人が参加し、茶道や華道、着付け、舞踊など11講座の受講者が、ステージ発表や展示発表で1年間の学びの成果を披露しました。

元は町婦人会の活動の中で行っていた各教室。会の解散後も存続を希望する声が多かったことから、現在は会員が主体となり「女性文化教室」として運営されています。

参加者の1人は「文化教室は仲間と一緒に学ぶ楽しみや達成感を共有する大切な場所。こうして毎年発表の場があることも大きなやりがいになっています」と語っていました。



「朝日町ふるさと納税」が、県内でつくられた優れたデザイン製品等を表彰する「山形エクセレントデザイン2017」で入賞に選ばれました。着任当初からこれまで約2年半携わってきた身として、素直に嬉しく光栄に思います。

今年で10回目を数える当コンペですが、今回は全部で65社・80点の応募があり、計15点が受賞。「朝日町ふるさと納税」は、返礼品を発送するダンボール箱などの見た目を整え、寄付してくれた方の「気になる存在」になること。また、いただいた寄付金の使い道や町の旬な情報を小冊子で伝えるこ



町地域おこし協力隊と桃色ウサヒの「中の人」こと、佐藤恒平まちづくり総合アドバイザーによる連載コーナー。日々の活動や朝日町での暮らしを語ります。

ふるさと納税の成果

朝日町情報交流推進員 青木亮太（三重県出身）



▲自分がデザインした段ボール箱やパンフレットを前に誇らし気な青木隊員（12月4日表彰会場にて）

とで、朝日町のファンになってもらえるような仕組みづくりに力を入れています。今回の受賞は、こうした一連の取り組みを評価していただいた結果だと思っています。

「デザイン」という言葉は、見た目（装飾）のことだけではなく、中身（思考）のことにも使われます。特に、近年は後者の認識が広まり、あらゆる分野で効果的な「デザイン」が意識されているように感じます。

これからも私たちの身の回りにあふれている「デザイン」について、肩肘張らずに話せる朝日町であればいいと思います。



歯の健康状態が改善！ みんなで守ろう 元気な歯

【平成29年度 第9回】

今月の担当 … 太田 律 健康推進係長（保健師）



町では、平成25年4月に「さらさらあさひ健康プラン21（第2次）」を策定し、各種健康づくり事業を展開しています。この計画は、平成34年度までの10年間の計画ですが、今年度が中間評価年となっています。そこで、現在実態を分析する中で見えてきた朝日町の現状をご紹介します。

今回は、「歯の健康」についてです。「3歳児でむし歯がある人を減らす」目標については、平成34年度の目標値を20%としていましたが、今年度時点で44.9%→11.4%と激減。むし歯のない健やかな子どもが増えました。

また、「70歳以上で20本以上歯を持っている方を増やす」目標については、平成34年での目標値35%に対して28.6%→48.9%と大きく上昇。高齢になっても自分の歯を大切に、毎日の食事を楽しく食べている方が多くなっています。

むし歯予防の重要性を保護者の方にお伝えしています。また、生後10月から「歯科健診」「フッ素塗布事業」を実施し、歯科医師や歯科衛生士によるアドバイスをいただいています。また、40歳からは歯槽膿漏等で若くして大切な歯を失わないよう、歯周病検診を行っています。

同プランに沿ったこれらの取り組みの他、お知らせや健診結果を受け取った町民の皆さん一人ひとりの取り組みが良い結果に表れていると感じます。

定期的に歯科医院を受診したり、各種健康教室に積極的に参加し、間食品の選び方や歯磨きの方法など、自分の生活の中に取り入れていただいた成果が、皆さんの歯の健康につながっています。

町では今後もこの取り組みを継続し、さらに皆さんの歯の健康が守られるよう応援していきます。

▼健康福祉課 健康推進係
☎67・2116



町全体が博物館！ 朝日町エコミュージアム サテライト散策



【おすすめの季節】1年中いつでも

第7回 Asahi 自然観

【DATA】宮宿から県道白滝・宮宿線に入り、白倉橋から町道白倉線を登ること約4km、夏のキャンプから冬のスキーまで通年利用可能

昭和60年、町では豊かな自然を生かし、家族連れで健康的な余暇を過ごせるレクリエーション施設の整備を計画。昭和54年に白倉区内に設置されていた町民スキー場を中心に、グレンデの拡充、ホテル自然観の建設とコテージ村・キャンプ場・テニスコートの整備、立木～白倉間の町道整備等を進めました。そして平成元年10月、朝日山麓家族旅行村「Asahi 自然観」として、町待望の通年型リゾート施設をオープンしたのです。

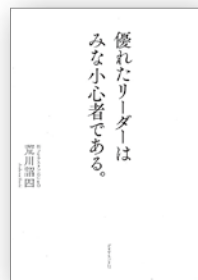
町の豊かな自然を活かした四季折々のレクリエーション、バラエティーに富んだイベントの工夫によって、無限の交流の舞台となり得る可能性を秘めた「朝日山麓家族旅行村」。「Asahi 自然観」の名称は、当時町が取り組むCI（コーポレート・アイデンティティ）計画に基づいて実施された町民意識アンケートを基に、検討委員会で選ばれたんだよ。

案内人の
つぶやき



町立図書館新刊案内

「優れたリーダーは
みな小心者である。」
荒川 詔四 著



グローバル企業ブリヂストンを率いたリーダーはなぜ「命令を嫌うたのか？」「小さな衆議主義者」それが最強のリーダーである。「人格者をめざすな」など、ブリヂストンCEOが「最強チームを生む25の鉄則」を伝える。著者は白鷹町出身。

「キラキラ共和国」
小川 糸 著



夫からの読ひ状、憧れの文豪からの葉書、大切な人への最後の手紙…。伝えたい思い、聞きたかった言葉、承ります。鎌倉を舞台にした代書屋の物語「ツバキ文庫店」の続編。「小説幻冬」連載を単行本化。著者は山形市出身。

その他の新刊

▼西郷どん！前編・後編／林真理子
▼クリスマスを探偵と／伊坂幸太郎
▼花歌は、うたう／小路幸也
▼忘れる女、忘れられる女／酒井順子
▼オペレーション／真山仁
▼朝比奈あすか
▼実践事例でわかる災害対策の新提案／農業共済新聞
▼ばっちゃん／伊集院要
▼満月の泥枕／道尾秀介
▼わろてんか上／吉田智子
▼忘れられた巨人／カズオ・イシグロ
▼わたしを離さないで／カズオ・イシグロ
▼さよなら、田中さん／鈴木明子
▼月たった2万円のふたりごはん／奥田健一
▼さくら、うるわし／長野まゆみ
▼ヴェネツィア便り／北村薫
▼地方に生きる若者たち／石井まこと
▼サイレントマザー／石川暲子
▼インドアグリーンのある暮らし／主婦の友社 ほか



【ブックテーマコーナー】
もっと楽しくすごそう！
『クリスマス＆もうすぐお正月』

戸籍のまど

Asahi town

11月1日～11月30日届出

Births

すこやかに

区 名	出生児氏名	性別	保護者名
四ノ沢	清 野 裕 都	男	貴裕・涼子
常 盤	佐 竹 結 翔	男	翼・夏希

Marriages

おしあわせに

佐藤 圭亮 (小原) 種村 早織 (米沢市)

Obituaries

やすらかに

区 名	死亡者氏名	世帯主名
前田沢	長 岡 み ゑ	良太郎
古 槇	清 野 たまよ	本 人
新 宿	高 田 藤 男	昇
八ツ沼	阿 部 里 子	壽 雄
常 盤	大 井 幸 一	満 幸
大 町	峯 田 やすの	重 雄

Population

人口と世帯数

●平成29年11月30日 現在
※()内は先月比

人 口	7,102 人 (- 5)
男	3,511 人 (+ 3)
女	3,591 人 (- 8)
世帯数	2,462 世帯 (- 1)

----- 11月中の異動 -----

出生	2人	転入	8人
死亡	7人	転出	8人

(※外国人を含む)

～お詫びと訂正～

本誌の先月号(2017年11月号)の4頁特集記事本文中で、写真の人物指示に誤りがありました。下記の通り訂正し、お詫び申し上げます。

▶4頁本文9行目

【誤】息子の一雄氏(写真前列の左から2番目)

【正】息子の一雄氏(写真前列の左から5番目)

とないのリンゴさん

(298)

ホリイ



広報誌でふるさとのぬくもりを

町外在住者の広報誌定期購読を受け付けています。

「町外在住だけど朝日町の情報が欲しい...」。町では広報誌の定期購読制度を設け、こうした声にお応えしています。(現在26人が購読中)。購読希望は随時受付中ですので、遠方にお住いの家族や親類の方々にぜひご紹介ください。



▶料金 年間1,680円
(1カ月あたり送料140円)

▶申込み 下記へ電話、メール等で申込みください。後日、郵便払込取扱票をお送りします。

▶申込み・問合せ
政策推進課 ☎0237-67-2112
E-mail inform@town.asahi.yamagata.jp

頑張った人に
拍手

各種スポーツ大会 文化コンクール等の入賞結果

◆**県中学校新人体育大会(南)**
ロック/10月21日
【個人戦】
3位 柔道男子81キロ級 志藤圭介
3位 柔道男子55キロ級 若月真都偉
5位 卓球女子 菅井愛未
ベスト16 剣道男子 渡辺友介

◆**県中学校新人体育大会(決勝大会/11月11日)**
【個人戦】
3位 柔道男子81キロ級 志藤圭介
3位 柔道男子55キロ級 若月真都偉
5位 卓球女子 菅井愛未
ベスト16 剣道男子 渡辺友介

◆**県小学生人権書道コンテスト**
【寒河江協議会奨励賞】
西五百川小6年 長岡大空

◆**第27回MOA美術館山形県児童作品展**
【銅賞】
西五百川小1年 佐藤怜郁

◆**内藤秀因記念第20回水彩画公募展**
【内藤秀因記念大賞】
大谷小6年 白田華里
【東北芸術工科大学賞】
朝日中3年 太田迪喜
【優秀賞】
朝日中1年 阿部菜々子
朝日中2年 岡崎優佳
朝日中3年 川村さつき
【優良賞】
朝日中1年 若月怜音
朝日中2年 阿部令
朝日中1年 梅津彩果

朝日中2年 岸優翔
朝日中2年 村山鮎夏
朝日中3年 丹野心花

◆**第33回県児童生徒版画作品展**
【特選/山形県造形教育連盟会長賞】
宮宿小6年 阿部奏翔
【特選】
朝日中2年 関根咲
西五百川小2年 小松莉々姫
【奨励賞】
朝日中2年 岡崎優佳

【佳作】
朝日中2年 阿部柊太
朝日中2年 丹野竜永
西五百川小2年 樋口叶夢
西五百川小2年 若月莉穂
宮宿小3年 石塚志保
宮宿小3年 海野真穂
宮宿小5年 海野陽樹
宮宿小6年 阿部凌太

【入選】
朝日中2年 岡崎涼
朝日中2年 阿部令
朝日中2年 鈴木一麻
宮宿小2年 石塚那緒也
宮宿小2年 石塚凜也
宮宿小2年 富樫真夢
宮宿小3年 設楽啓夢
宮宿小3年 今井美月
宮宿小3年 佐藤調
宮宿小3年 多田千春
宮宿小3年 渡邊知奈
細谷叶汰
佐藤結菜
熊谷帆香
宮宿小6年 近衛岳音

宮宿小6年 細谷慶太郎
宮宿小6年 白田桃香
宮宿小6年 長岡明里
宮宿小6年 長岡桃子
宮宿小6年 渡邊紗代

◆**山形県心の輪を広げる障がい者理解促進事業 障がい者週間**
のポスター
【優秀賞】
朝日中2年 佐直美羽

◆**土砂災害防止に関する絵画(県審査)**
【優秀賞】
朝日中1年 渡辺友介
朝日中2年 志藤侑可子
朝日中3年 志藤百音
西五百川小5年 渡辺陽人
西五百川小6年 佐竹来夢

◆**第42回県木工作コンクール**
【優秀賞】
大谷小5年 堀光姫

◆**建設業労働災害防止ポスターコンクール**
【優秀賞】
西五百川小4年 梅津知樹
西五百川小6年 佐竹萌

【入選】
西五百川小5年 長岡大聖
西五百川小6年 伊藤真菜実

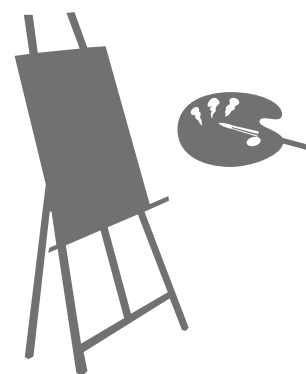
◆**大ケヤキ全国書道絵画展**
【書道/努力賞】
西五百川小6年 佐竹萌
【書道/佳作】
西五百川小5年 渡辺陽人

◆**第29回防犯広報コンクール**
【優秀賞】
西五百川小4年 尋田唯夏

◆**東北地区受信環境クリーン圖案コンクール**
【佳作】
朝日中1年 千葉清春

◆**第9回県年金ポスターコンクール**
【入選】
朝日中3年 齋藤とも

◆**第50回児童文化賞 善行ボランティア部門**
【奨励賞】
朝日中学校





クリスマス★子どものつどい

12月9日、町立図書館事業で「おはなし会ぶなの実（登坂ひかる代表）」が主催する「クリスマス子どものつどい」が創遊館で行われ、親子連れなど約80人が参加しました。

毎月図書館で実施されている「おはなし会」のクリスマススペシャルバージョン。おはなし会ぶなの実による大判絵本の読み聞かせや手遊び歌、楽しいダンスなどの催しのほか、特別ゲストとして「人形劇団あ・い」（東根市）の皆さんが登場。仕掛けや演出たっぷりの楽しい人形劇を披露して会場を沸かせました。

子どもたちはすっかり夢中になって「面白かった!」「もう1回見たい」と大興奮。楽しい会の後はお菓子のプレゼントもあり、一足早いクリスマス気分を存分に味わいました。



春夏秋冬 編集後記

相手を想い、自分に
できることを考える

それを受け入れてくれた女川町の皆さん。毎年交流を重ねながら良好な関係を築き、お互いの「思いやり」で深まった絆は、きっとこの先もかけがえない経験として、未来につながっていくことでしょう。

誰もが「人の役に立ちたい」と願いながら、実際に行動に移せる人は大人でもそう多くありません。真の奉仕活動とは何なのか、ここに一つの見本を示していただいたような気がします。

村山 彩

過去の広報でも折に触れて取り上げられてきた、朝日中学校と宮城県女川町（石巻市内田・蟹田地区仮設住宅）の皆さんとの6年間にわたる交流について特集しました。今回、自分が担当になってからは初めて現地訪問にも同行させていただき、当交流のあたたかい雰囲気を感じることができました。

被災地の方を励ましたい一心で一生懸命手紙を綴った朝日中学校の生徒たち。震災直後の混乱の中にあつて、